

IDDNewsletter.....3

March
2022



特集

令和4年度修了作品展から

令和4年（2022年）2月17日水曜日から、市立小樽美術館市民ギャラリーにて令和4年度の専攻科情報デザイン科の修了作品展を行いました。会場を見渡したときに広がるこれまでの学習の成果の積み重ねは、改めてその重みを感じさせるのに十分なものでした。特に、専攻科2年生が修了作品として制作したインスタレーション作品は、藍染や紙漉き等の工芸的な要素と現代アートの要素を組み合わせた、繊細かつダイナミックな作品に仕上がりました。今回は、修了作品展出品作品について、一部ではありますが、御紹介させていただきます。

令和4年度修了作品展から

令和4年（2022年）2月17日水曜日から、市立小樽美術館市民ギャラリーにて令和4年度の専攻科情報デザイン科の修了作品展を行いました。会場を見渡したときに広がるこれまでの学習の成果の積み重ねは、改めてその重みを感じさせるのに十分なものでした。特に、専攻科2年生が修了作品として制作したインスタレーション作品は、藍染や紙漉き等の工芸的な要素と現代アートの要素を組み合わせ、繊細かつダイナミックな作品に仕上がりました。今回は、修了作品展出品作品について、一部ではありますが、御紹介させていただきます。

○OpticalArt

折り紙で作成した和柄のリピーションによるグラフィック作品です。設置する面について、厚みの異なるスチレンボードを使い、段差をつけ、立体感を持たせようとしています。

このような幾何学模様の作品を展示する場合には、水平や垂直を取るのがとても大変なのですが、柄が施されたスチレンボードをある程度まとめて大判のスチレンボードに貼付しておくことで、できるだけ歪まずに設置できよう工夫しています。

設置後、改めて全体を見渡してみると、精緻でありながらも、ある種のダイナミックさも感じさせ、構成的に非常におもしろい作品になったと思われます。



○藍染ポスター

専攻科1年生による、専攻科2年生が取り組んできた藍染作品を素材とするポスターです。

これは、ヤフーの方を講師として招聘したウェブマーケティングに関わる学習の一環として取り組まれたものです。校地内で栽培された藍を利用した製品について、そこに何かしらの風土性を組み込みながら、その特色をどう商品の魅力として伝えていくかがポイントとなります。

制作においては、使用する画像の撮影からキャッチコピーやロゴタイプの作成、各素材のレイアウト等に一貫して取り組みました。画像処理や色彩構成、DTP、インテリアエレメント等の各教科科目を横断的・統合的に学習する機会として、大変質の高いものになったと思われます。

このような宣伝用のポスターについては、レイアウトの



巧拙よりも、写真の魅力のほうが容易にそれを超えることがままあるわけですが、今回の作品群は、それを強く感じさせます。染めたタオルを接写し、そのマチエールのみを生かそうとしたり、染色されたクリップを版面内で構成的に扱おうとしたり、制作者のデザインポリシーによりそれぞれ異なりはしますが、いずれも非常に見ごたえのある作品だったことは共通していたと思われます。

それまでの教科書の操作手順に従って操作を進めてきた手順と異なり、それなりにクリエイティブな要素が入ってきますから、学生の皆さんはそれなりに創意工夫に難儀していたようです。クリエイティブな活動における生みの苦しみを初めて味わった活動ではないかとも思われます。

藍染や梱包用の紙バンド等を利用した工芸品制作の授業における成果物です。

藍で染められたタオルやヘアバンドは、専攻科1年生のウェブマーケティングの授業の題材としても利用され、学年を縦断した、非常にダイナミックな活動へと展開していきました。

また、タオルには1年生の授業で制作された藍染のロゴタイプ「ZenibakoBlue」がトレーシングペーパーに印字されたが帯巻かれており、商品としての価値をより一層上げているものと思われます。

単に作業や制作活動の結果を並べるのではなく、そこにパッケージという概念を改めて実装させ、商品価値を高めていくということは、イメージ自体を学びの対象として扱う上で、重要な要素の一つになってくるものと思われます。

○年金ポスター

専攻科1年生が制作した、厚生労働省が主催する「令和の年金広報コンテスト」に応募した作品です。この作品も専攻科情報デザイン科に入学後、比較的初期に作られた作品です。フォントの扱いや素材の構成等にこなれたものを感じさせます。

加えて、この作品の面白いところは、特色を使った印刷にも対応しやすいと言う点です。特色は、プロセスカラーの対立概念とも言え、あらかじめ刷色に合わせてインクを調整し、印刷に使用することを指します。うまくいけば、特色3色でも制作が可能になっており、実際に刷る際のコストに関してもよく配慮された作品になっています。



○修了作品紹介 PV

展覧会に向けて制作された映像作品です。2年生の活動の様子を撮影したデータは、これまでにずいぶんと蓄積してきましたが、それらを1つにまとめ、展覧会場において壁面いっ



ぱいにプロジェクター投影しました。

制作においては縦置きスマートフォンの画像何枚を上手くでごまかしてないか? というリクエストがクライアントからありましたが、これは2つのレイヤーをうまく活用することでクリアしようとしています。背景のレイヤーの映像は、ぼかしを入れた上で画像全体に広がるように配置し、その上に縦置き画像を画像中央に配置して、全体が1つの表現となるようにしています。

○「untitled」(インスタレーション)

本展覧会の最大の目玉である、修了作品にあたるインスタレーション作品です。2年間で制作された和紙、藍染、ヒンメリ等の制作物について、ただただ水平面上に並べて置くのではなく、データベースの著作物と同じように、それらの集合体によって構成される空間自体を1つのオブジェクトとして、作品として提示することをコンセプトとした作品です。これは技術的には、美術館の展示室等に仮設展示する「インスタレーション」が用いられています。

また、この作品は、1985年に発表された、彫刻家長澤英俊のインスタレーション作品である「花々のくに」から大きな影響を受けています。

展覧会場の展示室ギャラリー中央に木枠が巡らされ、その木枠に、エレメントをうまく巡らせながら、全体を構成していきました。また、床や天井にも、大きめの藍染作品が縦横に張り巡らされています。

ここで生み出される空間は、これまでの2年間の時間の流れという積層を感じさせるものでありますし、その学びの重みを感じさせます。またこのインスタレーションにおいては、事前に学校内で繰り返し展示配置の練習を行いましたが、実際会場に配置してみると、照明の効果もあり、オブジェクトに光を通して現れる陰影が非常に意味の深い表現となり現れてきているように感じます。

IDDN



Contents

特集

2-3 令和4年度修了作品展から

令和4年(2022年)2月17日水曜日から、市立小樽美術館市民ギャラリーにて令和4年度の専攻科情報デザイン科の修了作品展を行いました。会場を見渡したときに広がるこれまでの学習の成果の積み重ねは、改めてその重みを感じさせるのに十分なものでした。特に、専攻科2年生が修了作品として制作したインスタレーション作品は、藍染や紙漉き等の工芸的な要素と現代アートの要素を組み合わせた、繊細かつダイナミックな作品に仕上がりました。今回は、修了作品展出品作品について、一部ではありますが、御紹介させていただきます。

Welcome to Information Design Department!!

令和4年度の 入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科では、令和4年度入学生を募集しています。1次募集は終了いたしました。現在2次募集について受け付けています。聴覚障害のある方で、高等学校や特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食となっております(注1)、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます(注2)。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科 Web ページ内の「入学者募集」をご覧ください。

専攻科情報デザイン科 Web ページ

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228

入学者募集について

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223

入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624



専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「準ずる教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTPやWebに係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Webであれば、HTML5とCSS3を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトやcenterタグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前まで教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

注1：1食330円(昼食)で、就学奨励費の対象となっています。注2：学年末・学年始休業日、夏季・冬季休業日は閉舎します。注3：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注5：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。注6：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聴こえづらいけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

March 2022 3

IDDNewsletter

March 2022

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。